

陸前高田市 津波ハザードマップ

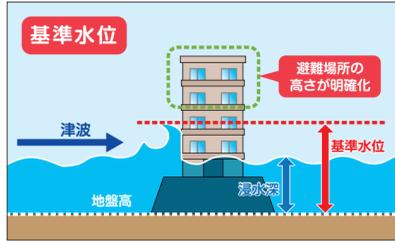
Rikuzentakata City TSUNAMI HAZARD MAP

岩手県は、令和4年3月に最大クラスの津波浸水想定を公表するとともに、その同じ範囲について、令和5年8月に「津波災害警戒区域（イエローゾーン）」に指定し、基準水位も公表しました。陸前高田市では、岩手県の津波浸水想定区域図をもとに、津波ハザードマップを作成しました。地震の規模などによっては、色が塗られている範囲よりも広く浸水することや、深く浸水する場合がありますので、注意してください。

津波災害警戒区域と基準水位

津波災害警戒区域（イエローゾーン）
最大クラスの津波が発生した場合に、住民等の生命・身体に危害が生ずるおそれがある区域です。岩手県においては、津波浸水想定と同じ範囲となっています。

基準水位
津波で浸水する場所の地面から水面までの高さ（浸水深）に、津波が建物等に衝突した際のせり上がり高さを加えた水位です。この津波ハザードマップでは「基準水位」を掲載しています。



津波ハザードマップの使い方

●津波ハザードマップで浸水するところや避難場所を確認しておきましょう。



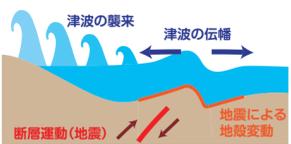
●避難経路は複数検討しておくことが大切です。避難について、家庭や職場、学校などで話し合っておきましょう。



津波を知る

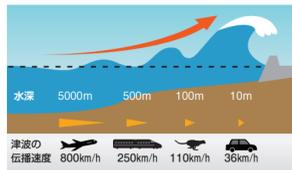
●津波の発生

海底で大きな地震が発生した場合に、津波が発生する可能性があります。また、長い時間ゆっくりした揺れの場合でも、津波が発生することがありますので注意が必要です。



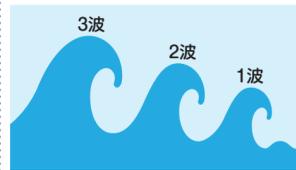
●津波の伝わる速さ

津波は、水深が深いほど速く伝わります。水深10mくらいでは、時速36km程度の速さです。



●津波は繰り返し襲う

津波は、繰り返し襲ってきます。第1波よりも第2波、第3波のほうが大きいこともあります。



日ごろからの備え

地震への備え

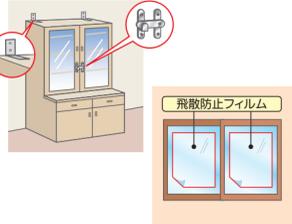
●住まいの耐震化

昭和56年以前の旧耐震基準で建てられた住宅については、耐震診断を受け、必要に応じて補強や改築をしましょう。



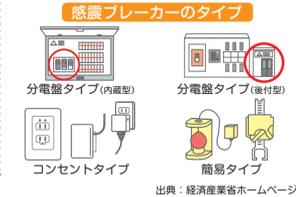
●家具の固定や窓ガラスの飛散防止

家具等は、転倒防止のためにしず金などで壁に固定しましょう。ガラス面には飛散防止フィルムを張りましょう。



●通電火災に備える

大きな地震で停電した後、電気が復旧する際に通電火災が発生する場合があります。避難する際には、ブレーカーを切りましょう。通電火災の対策としては揺れを感じて電気を自動的に止める「感震ブレーカー」が有効です。



非常持出品、備蓄品の準備

●非常持出品

災害が起きたとき、避難先で困らないように必要最低限持ち出すものです。

一人ひとりそれぞれに必要なものをそろえ、素早く避難できるように持ち出しやすいところに準備しておきましょう。
※下記参考参照



●備蓄品

災害が起きたとき、自宅で避難生活を送るために用意しておくものです。

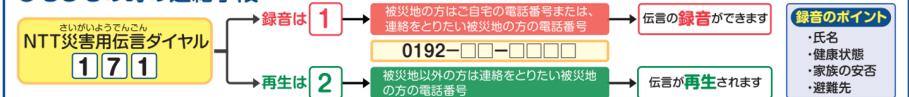
備蓄品は、世帯人数の3日間分以上を準備しておきましょう。普段の生活の中で使っている食品を少し多めに蓄えておきましょう。



参考

飲料水、携行食	携帯電話、スマートフォン携帯ラジオ	懐中電灯、乾電池	充電器、モバイルバッテリー	軍手、上着	レインコート	下着類
タオル	ティッシュ	生理用品	常備薬、お薬手帳	身分証明書、保険証	印鑑、預金通帳等	現金、(小銭)も

もしもの時の連絡手段



地震が起きたら

建物の中にいるとき

●身の安全を確保

転倒のおそれがある家具から離れ、テーブルなどの下で頭や身を守りましょう(あわてて火を消さない)。

まず低く! 頭を守り! 動かない!



●あわてて外に飛び出さない

落下物などで思わぬケガをすることがありますので、あわてて外に飛び出さないようにしましょう。



●逃げ道の確保

ドアを開けて逃げ道を確保しましょう。割れた窓ガラスなどに注意し、室内を歩くときはスリッパや靴を履きましよう。



外にいるとき

●落下物や塀などに注意

窓ガラスや看板などの落下物に注意しましょう。ブロック塀など倒れやすいものには近づかないようにしましょう。



●運転中の注意

ハザードランプを点灯させて徐々に速度を落とし、道路の左側に停車しましょう。車から離れる場合は、キーは付けたまま、ドアロックはしないでおきましょう。



津波から命を守る

津波警報などの情報を待たず、すぐに避難

- ◆強い揺れや長い揺れがおさまったら、津波警報等の発表を待たず、すぐ海から離れ、なるべく徒歩で、高台を目指して避難しましょう。
- ◆ケガをしないよう安全で動きやすい服装で避難しましょう。
- ◆準備している非常持出品を持って避難しましょう。



●最寄りの安全な高いところへ、すぐ避難

- ◆周囲に「津波だ、逃げる」となるべく呼び掛けながら率先して避難しましょう。
- ◆過去の経験や記憶、想定にとらわれず、少しでも高いところへ避難しましょう。
- ◆津波は川を遡るので、川沿いには避難しないようにしましょう。
- ◆津波災害警戒区域の外にいる人は、津波災害警戒区域の中に入らないようにしましょう。

●安全が確認できるまで避難を継続

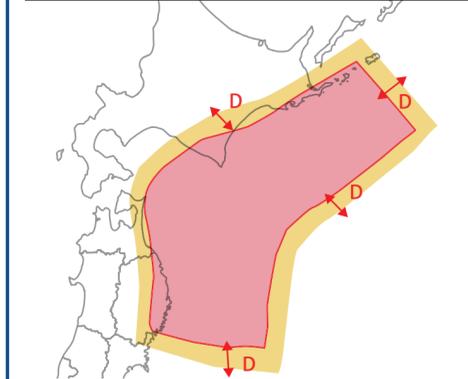
- ◆避難した後も、繰り返し襲ってくる津波に注意しましょう。
- ◆最新の情報に注意し、津波警報等が解除されるまで、避難を継続しましょう。



北海道・三陸沖後発地震注意情報

日本海溝・千島海溝周辺で大きな地震(マグニチュード7.0以上)が発生した場合、より大きな後発地震*1に備えて注意を呼びかける「北海道・三陸沖後発地震注意情報」が、国から発表されます。市では「北海道・三陸沖後発地震注意情報」が発表された場合は、防災行政無線やホームページなどでお知らせします。
(※1 先に発生した地震を「先発地震」、それに続いて発生する地震を「後発地震」と呼びます。)

●巨大地震の想定震源域とそれに影響を与えるエリア



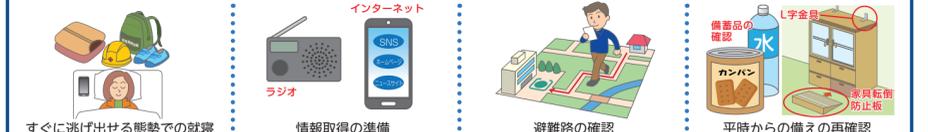
北海道の太平洋沖から東北地方の三陸沖の巨大地震の想定震源域およびその領域に影響を与える外側のエリア(左図の着色されたエリア)において、マグニチュード7.0以上の地震が発生した場合に、気象庁において判断し、「北海道・三陸沖後発地震注意情報」が発表されます。



*2 Mw(モーメントマグニチュード):地下の岩盤のずれにより計算された地震の規模を表す単位

●情報が発表された場合の備え

先発地震の発生後1週間程度は、家具の固定など平時からの地震の備えを再確認するとともに、揺れを感じたり津波警報などが発表された場合に、すぐに避難できるよう準備をしましょう。



●情報の注意点

- 「北海道・三陸沖後発地震注意情報」は、後発地震の発生可能性が平時よりも相対的に高まっていることをお知らせするものであり、情報が発表されたとしても、必ず巨大地震が発生するとは限りません。また、事前避難を呼びかけるものではありません。
- 先発地震を伴わず、大規模地震が突発的に発生する可能性があります。

(「北海道・三陸沖後発地震注意情報 防災対応ガイドライン」(内閣府)より抜粋し、一部加工)